

from the world
世界の国から

モンゴル国

Mongolia

首都 ウランバートル
面積 約156万4100平方キロメートル
人口 260万人
政体 共和制
元首 ナムバリーン・エンフバヤル大統領
通貨 トグログ
日本からの主な進出企業
住友商事、KDDI、スルガコーポレーション、HS証券



トュメンジャルガル・ゴンボダッシュ氏

モンゴル商工会議所
クリーナープロダクション・エネルギー効率センター所長

Mr. TUMENJARGAL Gombodash

Director

Cleaner Production & Energy Efficiency Center

Mongolian National Chamber of Commerce & Industry

豊富な資源を工業化の糸口に

急速に進んだ自由主義経済

モンゴルは1990年から政治的には急速な民主化が進み、かつての社会主義国の面影はありません。経済に関してはまだ過渡期とも言えますが、現在では殆どのセクターが民営化されています。また、遊牧民族の印象も強いと思われませんが、ゾドと呼ばれる雪害や旱魃などの気象条件、近年の経済改革などの影響から、遊牧民の都市への移動が進み、現在では人口の20%程度まで減ったとも言われています。

モンゴル経済の主流は、銅や石炭などを中心とした鉱業とヒツジやヤギに代表される牧畜業です。今後は鉱物資源開発から川下のプロジェクトへ、食肉生産から皮革、織物、食品加工分野などへの工業化を目指しています。また最近ではITやハイテク分野の企業も増加しています。

今回は、日本では知られていないモンゴルのビジネス機会を紹介するために来日しました。投資誘致のための企業訪問以外にも、社会的、文化的な面

で日本とモンゴルの交流を考えている企業や研修生の受け入れをあっせんする団体などとも会い、モンゴルにとって価値のある情報を得ることができました。

環境改善と企業育成

私の所属するクリーナープロダクションセンターは、国内企業の経営を持続可能なものに導くことを目的に設立されました。企業は収益を上げる以外にも、社会的な責任から環境に配慮した活動を行う必要があります。商工会議所の目的の一つである企業の育成、環境破壊防止やエネルギー効率向上の側面から支援しているのです。現在は省エネや環境問題に関する相談、企業向け研修事業、工場の査定や啓蒙活動を行っています。

現在モンゴルでは石炭火力が中心ですが、発電機やボイラーのエネルギー効率の悪さ、また人口が拡散している地域にどのように対応するかなど、多くの問題点があります。政府の方針として石炭が豊富にあるうちに代替エネルギー、具体的には風力や水力、バイオマスや太陽光発電などの可能性を模索しています。こういった観点から環境ビジネスや省エネに優れた日本企業のモンゴルへの進出を強く希望します。



首都ウランバートル

さらなる輸送網の整備・拡充へ

豊富な天然資源、国民の教育水準の高さ、労働コストの安さなどがモンゴルに進出する企業にとっての大きな利点になるでしょう。世界銀行の調査でも、会社設立の容易さや投資家保護などで高い評価を得ています。日本・モンゴル間で投資保護協定も結ばれており、支援体制も充実しています。

逆に現在抱える課題は、内陸国ならではの輸送コストの問題です。社会主義時代の交通量の少なかった頃に作られた道路が殆どですので、その舗装や周辺整備など、政府も急ピッチで計画を進めていますが、追いついていないのが現状です。また鉄道についてはすでにロシアー中国間を縦断する路線がありますが、さらに鉄道網を強化していく計画です。この地の利を活かして経済特区を設置し、高い技術力を持った日本の中小企業を誘致できたらと考えています。 写真提供：株式会社風の旅行社



モンゴルを縦断し、北京～モスクワ間を走る国際列車